

# 大学入学共通テスト試行調査 2018.11 生物基礎

## 全体概要

制限時間	2科目 60分	配点	50点	大問数	3大問
出題分野	生物基礎				
難易度	※対現行センター試験 やや難				
解答形式	マーク式				
主な特徴	※対現行センター試験 文章やデータからの読解と考察要素が多くなり、知識だけで解答できる問題は減った。				

## 全体出題傾向

### ◆知識を前提に考える力が求められている

大問3題ともに対話形式のリード文の問題が含まれ、その中から必要な情報を読み取る力が要求されている。現行のセンター試験と比べると、単純な知識を問う問題は減り、知識をもとに図やグラフを読み解いたり、文章の正誤を判断したりといった考察要素を含む問題が多くなっている。更にこれまで出題実績がなかった、研究目的を設定し実験計画を考えさせる形式の問題も出題されるなど、丸暗記の知識だけでは対処できない問題が多くなっている。

## 対策

### ◆丸暗記ではなく、内容説明ができるだけの理解が必要

知識問題でも単純に用語を問う形式の問題などではなく、内容の理解が必須の問題や、知識をもとに考察を進める必要がある問題が多いため、暗記科目だと思っていると足元をすくわれる可能性が高い。用語であれば定義を、名称であれば特徴や機能などが説明できる位までの基礎知識を備えておきたい。

また、現行のセンター試験に比べ、文章や図、グラフなどから読み取るべき情報量が増えているので、読解力の向上は早い段階から意識するようにしよう。

## 大問別コメント

### 第1問

Aでは、これまでセンター試験では出題されていなかった実験計画を考えさせる形式の問題が出題されており、より考える力を重視した出題になっていることがわかる。

Bでは4単位生物の範囲の題材を、情報を与えた上で考え、計算させるという形で出題しているのが特徴的であった。

### 第2問

ABともに、CT画像のような図や投薬法など、身近な題材と生物の知識を関連づけた「知識をどう使うのか」に視点を合わせた出題であった。

Aの肝小葉の部分拡大図は教科書にも掲載されているが、名称や配置を覚えている程度の知識と理解では各血管の判別が難しい。

Bの抗体量変化のグラフも二次応答のグラフと勘違いして誤答した者がいたのではないだろうか。これも文章中の「咬まれた直後に血清を注射した患者」という条件を読み取り、患者体内では僅かしか抗ハブ毒抗体が産生されないであろうという考察をする必要がある。

### 第3問

Aは2017年センター試験とほぼ同じグラフと題意のバイオームの問題であるが、グラフから数値を読んだ上での計算問題が加わっている。

Bは生態系の物質循環とエネルギーの流れを扱った問題であるが、用語や名称を知っているだけでなく、きちんと内容理解が伴っていないと文章の正誤が判定しづらい形になっていた。